

# 事業の概要

東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、下水汚泥から放射性物質が検出され、堀河町終末処理場においても、下水汚泥を場内に保管せざるを得ない状況が続いています。

環境省では、**下水汚泥の乾燥処理によって保管スペースの改善、汚泥性状の安定化を図り、場外へ搬出しやすい形態とする事業を進めています。**

## 経緯

### <平成24年>

- 3月4日 堀河町・東浜町地区の皆様を対象とした説明会を開催。
- 3月末 施設計画と設計業務が終了。
- 4月中旬～ 各乾燥処理設備の機器製作を開始。
- 9月～ 土木工事に着手。  
水処理施設内で保管されている汚泥の性状調査、フレキシブルコンテナバックの自動開袋機試験などを実施。

### <平成25年>

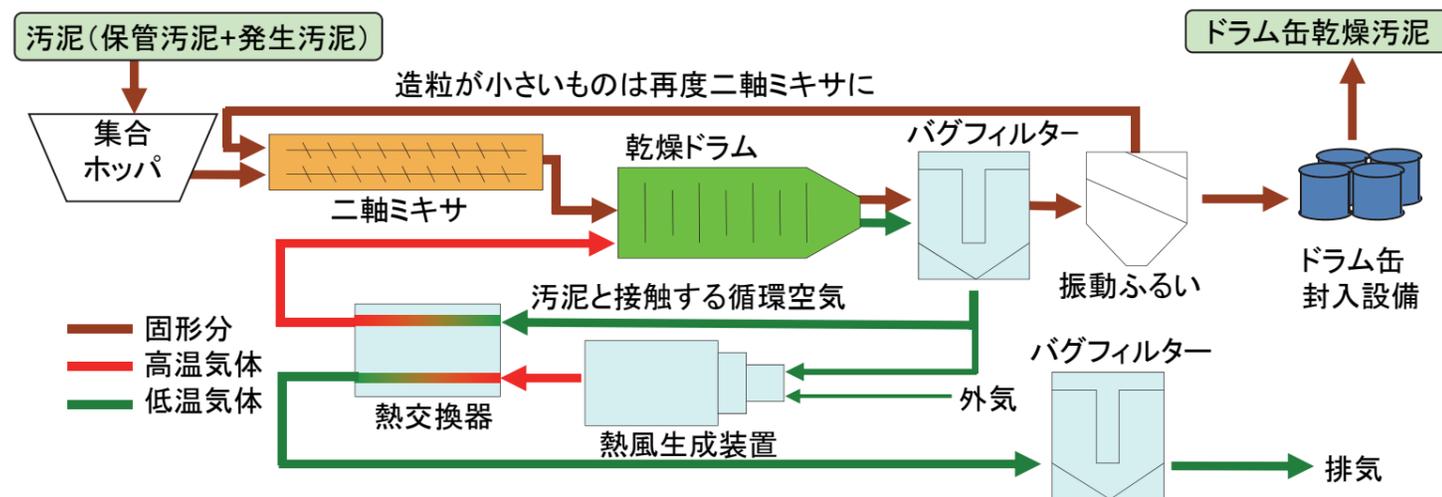
- 1月末 主な乾燥処理設備の設置が完了。
- 3月10日 堀河町・東浜町地区の皆様を対象とした見学会を開催。
- 4月1日 設置したモニタリングポストによる空間放射線量率の計測値をHPで公開開始。
- 4月6日 乾燥施設の落成式を開催。
- 4月上旬 各乾燥処理設備の試運転状況を確認後、本格的な運転を開始。
- 5月9日 秋篠宮殿下御夫妻の御視察。

## 今後の方針

- 保管汚泥を全て乾燥処理します。
- 乾燥汚泥は、国が責任を持ち、可能となり次第場外へ搬出します。

# 乾燥処理の工程と特徴

汚泥の乾燥処理は、保管されている脱水汚泥（保管汚泥）と平成25年4月以降に発生している脱水汚泥（発生汚泥）を混合し、下図の工程で24時間連続運転を行っています（設備能力 30t - 脱水汚泥/日）。また、脱水汚泥を乾燥させることで重量を約1/5にしています。



## 乾燥処理（ユニット型）の特徴

- 短期間で設計・建設ができ、狭い場所でも設置できました。
- 造粒方式の採用で飛散しにくい粒状の乾燥物を製造しています。
- 脱水汚泥に含まれる水分だけを除去する技術であり、汚泥に接触する空気の最大温度は約450℃です。セシウムの沸点よりも低い温度であるため、**セシウムの気化を抑制しています。**

## 各設備の役割

- 「集合ホッパ」は、脱水汚泥を受け入れる入り口です。
- 「二軸ミキサ」で汚泥を粒状にし、「乾燥ドラム」で熱風を当てることで乾燥させ、「振動ふるい」で適切なサイズに分別して「ドラム缶」に詰めています。
- 「熱交換器」は、「熱風生成装置」で発生させた熱を用いて、循環空気を間接的に加温させるものです。